

# オーディオブックの落語学習コンテンツの開発

定平 誠

尚美学園大学

## 1. はじめに

オーディオブックの利用者が急増している。audiobook.jpの会員数を見ると、2018年に60万人、2019年には100万を突破した。

現在のコンテンツのジャンルは小説、ビジネス書、漫画が主流であるが、今後は学習コンテンツへの期待が高まっている。特に、出版関連、アプリ関連企業では、読書離れ傾向にある小中高生や大学生に対するオーディオブック学習のあり方に強い関心が寄せられている。

しかし、現状では、その有効性を認めつつも、まだ実際の導入に踏み切れていないのが実情である。

その原因を探ってみると、テキストブックのように文字やイラストなどの読むためのデザインレイアウトが施されているのとは違った音声のみで聴く学習における惹起がある。単調に読み上げた音声では聴かせるための工夫が施されていないため、単につまらない学習コンテンツになる傾向が高い。

そこで、本研究は音声の魅力、話し方の演出、音質の良さなどの工夫を施し、オーディオブックのエンターテインメント性を高めた聴かせる学習コンテンツの開発を行った。

## 2. オーディオブックの学習効果

オーディオブックのスタイルが大きく変化した。これまでは、ウォークマンやipodなどのデジタルオーディオプレーヤーと音声データの入ったCDやカセットを持ち歩かなければならなかった。しかし、インターネットとスマートフォンの普及に伴い、音声ファイルをダウンロードすることで、スマートフォンでいつでもどこでも聴けるオーディオブックスタイルになった。

オーディオブックの学習効果には次のようなものがある。

### ① ニッチタイムの有効利用

休み時間や通学、通勤の移動時間などちょっとした空き時間を使って学習することができる。

### ② ながら学習

電車に乗りながら、散歩しながら、お茶をしながらなどながら学習ができる。

### ③ 反復学習

反復学習により理解力の向上が期待できる。

耳学では反復学習による気づきや突如スパークしたひらめき効果も期待できる。

## 3. 聴かせる学習コンテンツの開発

いつでもどこでもスマートフォンで学べる動画学習サービスの代表的なものにUdemyがある。この学習コンテンツは音声だけでなく、スマートフォンの画面上にスライドや映像を流すことができる。アメリカのオンライン学習サービスで10万コンテンツを提供している。日本ではベネッセが提携し、日本語のオンライン学習サービスを提供している。

著者もUdemyで「メディアリテラシー」の講座を配信している。しかし、日本の学習コンテンツの多くは、著者のものも含めて話し方に魅力がないものが多い。例え、博識ある講師が学習内容の高い講座をしても、話し方そのものに魅力がないと、リスナーは単調でつまらなく感じ、継続して聴く気が薄れてしまう。これではどんなに素晴らしい商品価値の高い学習コンテンツでも商品価値は低くなり、購買に繋がらない。

図表1 動画学習サービス Udemy



図表2 Udemy の講座

	<p><b>メディアリテラシー マスター講座</b></p> <p>レクチャーの数: 28 ・ 5時間 ・ 初級</p> <p>インターネットの使い方や活用方法から、インターネット上での著作権や、セキュリティ、最新のIoTまで基礎を一通り。大学での講義内容を手軽に学べます！   By 定平 誠</p>
--	---

そこで、自分のUdemyでの経験も踏まえて、聴かせることだけに特化し、魅力のあるオーディオブックスタイルでの学習コンテンツの開発に着手した。

### 3.1 耳で感じ、楽しめる学習コンテンツ

「読む」「見る」ではない「聴かせる」学習に必要なことは、聴いて楽しく学べることにある。そのためには、聴きたくなるような話術や演出が求められる。オーディオブックにはこうしたエンターテイメント性が非常に重要になる。

### 3.2 プロの噺家による落語学習

講師、先生はライブの授業では話しながら、収録となると慣れていないため、講座内容が棒読みになりがちで面白さに欠ける傾向が強い。

そこで、本研究では噺家に着目し、古典落語の面白さを学習ネタに書き換えて、「落語」の一席としたオーディオ学習を考案した。古典落語はすでに著作権が消滅しているので落語学習ネタに編集することが可能である。この内容の講座は、真打の「古今亭志ん五」氏によって、落語学習の収録を行った。

### 3.3 高品質な録音

オーディオブックは音質が非常に重要になる。雑音やノイズ、音割れなどがあってはプロの噺家の落語学習コンテンツも効果が半減してしまう。オーディオブックとしての商品価値は低くなる。

そこで、高音質な録音を行うために、本学の録音スタジオを使い、本大学の講師による収録を実施した。

図表3 落語学習の収録



図表4 録音スタジオ



## 4 落語学習コンテンツの公開

落語学習コンテンツ配信サービス名を「ミミラク」と命名し、2020年1月上旬に、下記の古典落語を「メディアリテラシー」をテーマとした落語学習コンテンツに書き換え、audiobook.jpにて公開する。また、2020年2月には「落語教育フォーラム」を開催する。

図表5 audiobook.jp



図表6 落語学習の収録

お菊の皿	ネットアイドル、ライブ配信、SNS 拡散
狸の礼	キャッシュレス、電子マネー、スマホ決済
猫の皿	オークション、フリマ、オタク、マニア
初天神	インターネット、ネットショップ、通販
締め込み	セキュリティ対策、アクセス管理、詐欺
子ほめ	盛る、映える、加工、アプリ、SNS 投稿



## 5 おわりに

今回のオーディオブックの落語学習コンテンツの開発はオーディオブックの学習効果の一モデルを提示した。今後も継続的にオーディオブックの学習コンテンツの開発を行い、学習効果を発表していく計画である。